

## 2018年1月28日 主日礼拝

プレイズ

奏 楽

主の祈り

賛 美 聖歌480番「輝く日を仰ぐとき」  
(感謝しつつ主の門に)(栄光から栄光へと)

聖 書 ①マタイによる福音書 20章29～34節 (p.32)

②マタイによる福音書 6章24～34節 (p.9)

③コリント人への第二の手紙 12章1～10節 (p.290)

音 楽 聖歌隊&アンサンブル

メッセージ ①「キリエ・エレイソン！！」 大川従道牧師

②「生活の心配よ、さようなら」 大塚信頼牧師

③「弱さはメリット」 村上宣道先生

賛 美 「主はゆるしたもう」(419番・献金)

頌 栄 「アーメン・主にハレルヤ！」アーメン

祝 禱

「まず、神の国と神の義とを求めなさい。  
そうすれば、これらのものは、  
すべて添えて与えられるであろう。」  
(マタイ六の三十三)

### 【町田ニュース】

- ・ 本日は、「**新年・お正月大会**」。礼拝後、おいしいお餅やお汁粉があります。
- ・ **国際飢餓対策への募金**は前の箱へ。祝福をお祈りします。
- ・ 火曜日、**早天祈禱会**で大塚師が説教(Y)。お祈り下さい。
- ・ 今週も祈禱会を大切に(Y)。水曜はモンゴルから**バーサンドリー師**。木曜朝は小林伝道師、金曜夜は大野 M 伝道師。
- ・ 金曜10時、大塚師はシオン幼稚園の「**ゴスペル・カフェ**」でご奉仕。
- ・ 土曜、午後4時半から**祈り会**。主の臨在溢れる祈り会です。
- ・ 来週、ビジョンミーティングあり。・**日曜学校に協力できる方**、求めます。
- ・ 祝、誕生。大塚正晴兄(31日)
- ・ 今年も宿題に従って、**聖書通読・Q.T.**しましょう。



## 畑の中の宝物

先日、TVの「あさいち」の番組に小澤征爾氏が1時間以上に渡り出演。最後の有働さんの「小澤さんの一番好きな歌は何ですか」との質問に、「ア～メン」と歌いだされ、アーメンコーラスを終わるまで3回も続けて歌われました。しかも体を揺らせて、とっても楽しそうに。

小澤征爾さんは、1935年中国生まれ。幼い頃、北京の街で育ち、クリスマスだったお母さんに連れられて教会へ。日曜学校で子どもたちが賛美するのを見て帰ったり、家に帰るとお母さんから讚美歌を教してもらったりして、家族で讚美歌を歌うようになりました。5歳のクリスマスには母君がアコーディオンを買ってきて、家族で伴奏付きで歌うようになったのが、音楽の原点だそうです。

月刊誌「福音と世界」に興味深い話が載っています。(以下、大和の週報より)

ある年ソウルのとある教会で礼拝に出席した時、気付いたことがあった。それは賛美歌の音の高さだった。日本で見慣れた楽譜より、1音高くなっていた。日本では「音が高い」と言われるであろうその楽譜を、集った会衆は難なく歌い上げていたのだ。国によって歌いやすい音の高さは違うのかもしれない。その疑問を、私はある講習会で専門家に尋ねてみた。

すると話は意外な展開を見せた。答えてくださったのは、プロの作曲家として多くの歌をつくってきたS氏である。S氏によれば、残念なことに日本人の音域は年々狭くなっているのだそうだ。それはここ30年ほど前から現れ始めた現象だという。S氏は特に子ども番組の歌をつくる中で、「年々狭くなる日本人の音域」を実感してきたというのだ。

なぜだかわかりますか、とS氏は私の答えを待たずに教えてくれた。それは赤ちゃんが泣かなくなったからですよ、と。ご存知の通り、赤ちゃんは盛大に泣きわめく。赤ちゃんより少し大きくなった幼子も金切り声を出したり叫んだりする。実はそれが声の幅を広げるのだ。子どもの時に大きい声や高い声を出すのは音域を広げる練習でもあるという。・・正確に言えば、「赤ちゃんが泣かなくなった」のではない。泣く環境をせばめられていったのだ。

教会や家で賛美すること、子どもが大きな声で泣くこと、大切なんですね。

大塚信頼

宿題(祝大) 今週もむさぼるように聖書を読みましょう。

Aコース: マタイ19章～22章 Bコース: 出エジプト記19章～33章